



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	逃婚歌集錦1 : リス族「逃婚調」
Author(s)	渋谷, 瑞江
Citation	北海道大學文學部紀要, 45(3), 121-170
Issue Date	1997-03-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33686
Type	departmental bulletin paper
File Information	45(3)_PL121-170.pdf



逃婚歌集錦 1 — リス族 「逃婚調」

渋谷 瑞江

「逃婚歌」概況

中国の西南部に住む少数民族を中心に「逃婚歌」と呼ばれる民間歌謡があることは、以前にも述べた^{*1}。内容は、いわゆる「駆け落ち」をうたったものである。しかし日本の演歌とは違い、ひとりでしみりと聞くものではない。基本的には、祭りや集まりの場面で歌われ、聞かれるものだという。このうたを伝承している民族の多くは、男女がうたを歌い合う、いわゆる歌垣的習俗を持っている。それだけでなく、これらの民族は様々な儀式や祭りの場面でうたを歌うことも多い。逃婚歌だけでなく、多様な民歌を伝える、豊かな伝承の世界を持つ人々なのである。

リストにも挙げたように、さまざまなうたが採集されているが、これらはみな漢語（中国語）に「翻訳」されたものである。さらに中華人民共和国では「整理」という作業が加わることも多い。これについては少数民族についての調査・研究が始まった頃から、当の研究者の間でも問題にされて来た^{*2}。歌ったものから直接に翻訳することが、もちろん最上の手段である。しかしここでは、採集、整理、漢語への翻訳という作業を経て文字資料として発表されたものを、さらに日本語に翻訳するという間接的な方法をとっている。一次資料としての実際のうたからの距離が甚大なものであることは、充分承知している。それでも、豊かな伝承世界の一端でも垣間見ようとこの翻訳を試みた。わたしたちの周りも、電子音が氾濫する以前には、うたは案外身近だったのではないか。そんなことを思い出すさすがになれないかとも考

えている。

また、ここでは実際に駆け落ちがあったかどうかと、逃婚歌は切り離して考えたい。全く関連がないわけではないと思う。事例の報告もあるし、興味をひかれることも事実である。しかし、事例にこだわってはいは、うたの世界が見えないと思う。おそらく世界中で普遍的にみられる駆け落ちという出来事を、このようなうたにして表現した人々の心に想像をめぐらせることを一番の目的としたい。

リス族『逃婚調』

リス族は漢字では「傈僳」と表記される。雲南省西部を流れる怒江（下流はサルウィン川）流域に住む少数民族である。雲南省怒江リス族自治州を中心に、川に沿うように居住するが、一部はビルマ（ミャンマー）、タイ北部など周辺の国にも居住している。言葉はチベット・ビルマ語派、イ語群に属するリス語を話す。人口は1990年の時点でおおよそ57万人。弓の名手として聞こえた民族でもある。

一方、民族の歴史をはじめ、さまざまな事柄をうたとして口承して来た。なかでも「逃婚調（駆け落ちのうた）」は有名で、「逃婚歌」といえば、まずリス族のものが取り上げられる。このうたが「逃婚歌」の典型として理解されているといってもいいだろう。同一の「逃婚調」が以下の四種の版で出ている。みな①を底本としたものである。

- ①「逃婚調（傈僳族長歌）」（『民間文学』1955年第12期 pp.4-22, 徐琳, 木玉璋採集, 徐琳, 木玉璋, 曾茂整理）
- ②『逃婚調』（中国民間文芸研究会編 1956年作家出版社 徐琳, 木玉璋採集, 徐琳, 木玉璋, 曾茂整理）
- ③『逃婚調』（1959年人民文学出版社 徐琳等採集整理）
- ④「逃婚調」（『逃婚調・重逢調・生産調』1980年雲南人民出版社 pp.3-64 徐琳, 木玉璋, 曾茂採集翻訳）

ここで翻訳したものは、最も早く発表された①によった。各版本間で語句の異同もあるが、物語の大筋に関わるものではないと考えられる。男女の掛け合いの形式で、かなり大部のものである。あとがき等も含めて約三万字に上る作品であるという。およそのあらすじは以下のようなものである。

これまで会う機会のなかった男女が、ある家の宴の席でめぐりあう。しかしすでに互いに夫と妻のある身の上である。しかし方法がないわけではない。女（アマナ）は夫方からの結納をまだ全部は受け取っていないのだ。ここから場面は男の親戚や漢族やヌー族を頼りに駆け落ちを執行するところへと転換する。女は男の気持ちを木契（リスの習俗で、木に刻み目を入れそれを二つに割って契約の証拠としてそれぞれに持つというもの）に刻み、矢に刻んで（愛情のしるしとして、矢に刻み目を入れる習俗がある）欲しいと要求するが、男はなかなか応じてくれない。犬と鶏を屠って誓いを立てることで、女はようやく納得する。それから二人は、食糧を蓄えたり布を織ったりして駆け落ちの準備をする。キュウリとカボチャの種を隠し持ち、弓矢と刀を携え、雪への備えを整えて出発する。行く先々で種をまくのだが、どこでも稔らない。最後に大理で試みると、それは見事に実を結ぶ。

ここで二人は新しい生活を始める。漢族、ヌー族と親しくなって助けてもらう。男は開墾して焼畑を作り、女は機織りをして、蓄えをふやす。二人には息子と娘が生まれる。男は自分の両親が孫に会いたがっているだろうと里帰りを決意する。手土産を心配する女を説得して、麝香と金を漢族やチベット族の市で換金して贈物をととのえ、馬とロバにまたがって故郷へ帰る。故郷に着くと、家の人達が魂呼ばいの儀式をしてくれて、二人は面子を施し故郷に落ち着くことができる。

いささか唐突な終り方をするが、最終的にハッピーエンドとなる、前向きのうたである。しかし中盤では、女と男の要求の対立や移動の繰り返しなど錯綜する描写がみられ、この作品を平板なものとしなない効果をあげているように感じる。出会って、逃げて、よそへ落ち延びて暮らしを立て、蓄えをふやし子をもうけて、いわば故郷に錦を飾る形で帰る。構成としては非常にまとまりのあるものだ。

『民間文学』のこのうたのすぐ後に「關於「逃婚調」(「逃婚調」について)」という、徐琳・木玉璋連名の、いわばあとがきに当たる文章が載っている(p.24)。それによると、流布地区は雲南西部の貢山、福貢、碧江、維西、中甸、雲龍の各県とビルマ(ミャンマー)との国境付近であるという。そしてこれが歌われるのは、祭りや集まりの席上であり、皆で丸い輪になって手をつなぎ、二手に分かれて、それぞれのグループが男性と女性のパートを受け持って交互に歌っていく方法と、もう一つはいろりを皆で取り囲んで、同じように男女のグループに分かれて歌う方法とがあって、酒を飲みながら歌うこともあり、長いものでは三日三晩に及ぶこともあるという。こういった長丁場では、木契の場面や、棲処を捜して移動する場面を随意に引き伸ばす。短いものでも歌うのに一晩はかかるという。さらに、採集、翻訳の状況について以下のように述べている。

このうたはもともとは口伝のものだけで、文字に記録されたものはなかった。1953年、中国科学院語言研究所から言語調査に派遣されたときに言語資料として記録されたものである。我々は福貢県の普言氏と碧江県の開富暢氏の歌ったものをリス語で記録し、口頭で照合し、漢語に訳した。さらに1954年、怒江地区で仕事をしたときに怒江傈僳族自治州^{*3}の「調子」が歌える裴阿貝首席と麥阿露科長の校正によって幾つかの歌詞を補充した。雲南省文聯の徐嘉瑞氏も以前に歌詞を整理していた。今年[1955年]になって、我々二人と中国民間文芸研究会の曾茂氏とが一緒になって、原文に当たって一字一句を斟酌し改訂を施した。

この整理は実際には単なる翻訳であり、訳文が長くなり過ぎたのを二行に分けた以外、原文の順序を変えたり、語句を添加・削除するということなどはしなかった。

この長歌は、もともとは七字で一句(感情を表すために、前に二、三字の呼びかけや感嘆詞を付け加える場合がある)である。二句ずつ、意味が重複し、対句構造になっている。それは名詞に名詞、動詞に動詞、形容詞に形容詞とかなり厳格なものである。これがリス族の民歌の特徴である。意味の重

複と対句についてはおおよそその通りに翻訳したが、各句の字数については、読みにくくなることを避けるために、無理にこだわることはなかった。

この作品の採集、整理に当たった人のうち、徐琳、木玉璋の両氏は当時中国科学院語言研究所に所属していたリス語研究の専門家で、『傈僳語簡志』という著作もある^{☆4}。さらに木玉璋はリス族である。漢語への翻訳に関しては信頼のおけるものと言えるだろう。これを日本語に翻訳することが、はたして意味のあることかどうかという問題はある。ここでは、詩形式で一句が短いこともあり、対訳という形式をとった。

注

☆1 渋谷瑞江「逃婚談義」(『饗養』創刊号, 1994, pp.58-68)

☆2 このことは、中華人民共和国が成立し「少数民族」が政府によって認定され、その社会や文化の調査が始まった当初から論議を呼んだ問題だった。早くは、1957年8月の『民間文学』誌上で「怎樣搜集, 整理? (いかにして採集・整理をなすべきか)」というテーマで、各地で採集・整理に直接携わる人達からの投書の特集している。その後も『民間文学』では、1962年4月に馬学良「談少数民族民間文学的翻譯問題」、1963年には「關於民間文学的搜集和整理問題」というテーマで、納西(ナシ)族の民間歌謡についての論争が掲載されるなど、興味をひいた問題だったことがうかがえる。

☆3 この当時は自治区(1954年8月成立)だった。1957年1月に自治州となり、現在に至っている。

☆4 徐琳, 木玉璋, 盖興之編著(1986, 民族出版社)

逃婚調（リス族長歌）

（★は原注，☆は訳注）

男：咱們從來難得見面，
兩家幾代人都少來往。
你住一地，我住一地，
你在一簣，我在一簣。
想起別人來看得到，
想起你來看不到。
做夢夢得見別人的魂。
做夢夢不見你的魂
咱們兩兄妹啊，
天啊天也不保佑，
地啊地也不成全。
今天遇上了好日子，
今晚見到了好月亮，
借着到別人家來作客，
借着到別人家來喝酒，
不相見的見到啦，
不相會的會到啦，
來談談我們的苦吧，
來叙叙我們的想念吧。

私達は今までなかなか会う機会がなかった，
両家の間の人の行き来も少なかった。
あなたはあちら，わたしはこちら，
あなたはあの谷，わたしはこの谷。
他の人が会いに来る事はあっても，
あなたが会いに来るとは思わなかった。
他の人の夢を見る事はあっても，
あなたの夢を見る事はなかった。
私達二人には，
天の助けもなく，
地の力添えもない。
今日は日も佳く，
晩にはいい月が出る，
人の家に招かれたとき，
人の家で酒をふるまわれたとき，
知らない者同士が出会った，
見たことのない者同士が出会った，
さあ，わたしたちの悩みを語ろう。
さあ，わたしたちの想いを語ろう。

女：去年咱們沒有相見，
前年咱們沒有遇着。—
在我還不懂事的時候，
我爸把我在背心裏就許了人^{*1}，

去年は私達は相見ることはありませんでした。
おとしも出会うことはありませんでした。—
私がまだ何も分からないうちに，
父さんは私のお相手を決めてしまいました，

我媽把我在抱被裏就許了人。
到我懂了事，
這就成了我的苦心藥*2；
到我長大了，
這就成了我的傷心藤*3。
現在我要自己找人不行了，
現在我要自己許人也不成了。
在丈夫那個家裏啊，
在婆婆那個家裏啊，
我成天拿啼哭當茶飯，
我整日用眼淚當口糧，
種地也提不起勁頭，
織布也打不起精神。
我這一生過得太可惜了，
我這一世活得太冤枉了。
我的一生不如人，
我的一世不如人，
這都因為阿爸養了我，
這都因為阿媽抱過我。
心不苦的不要來跟我對唱，
心不痛的不要來逗我玩，
將來啊，
恐怕你不能跟我一同跳河，
恐怕你不能跟我一同吃毒藥。
你是有了人又來跟我對唱的吧？
你是有了人又來逗我玩的吧？
日後啊，
你要是不來會我啊，
你要是不來看我啊，

母さんは私の婿さんを決めてしまいました。
気がついたときには、
私の苦しみはとくに出来上がってしまっていたのです。
大きくなる頃には、
私の心はとくに蝕まれてしまっていたのです。
今となっては自分で相手を捜したくてもそれは出来ません、
今となっては自分から結婚の約束をしたくてもそれは出来ません。
家には旦那がいるの、
家には姑がいるの、
私には泣くことがごはんの代わり、
私には涙が食べ物の代わり、
野良仕事では力が入らない、
機織りでは気が入らない。
私のこの人生は何て悲しいのでしょう、
私のこの生涯は何とねじ曲げられてしまったのでしょうか。
私の人生は人間のものとは思えない、
私の生涯はとても人間のものとは思えない。
みんな父さんが私を育てたせい、
みんな母さんが私を大きくしたせいよ。
心から苦しんでいない人は私と歌の掛け合いをすることはありません、
心を痛めていない人は私のところへ来ることはありません、
これから、
あなたが私と一緒に川に身を投げることはできないのではと気がかりです、
あなたが私と一緒に毒を呑むことはできないのではと気がかりです。
あなたはまた私と歌の掛け合いに来てくれるのでしょうか？
あなたはまた私とのひとときを過ごしに来てくれるのでしょうか？
これから、
あなたがもし逢いに来てくれなかったら、
あなたがもし私のところに来てくれなかったら、

我一定吃毒藥，掙手掙腳地去死，
我一定跳河，撲通一聲濺起水花。

私はきっと毒を吞みます，そして身悶えて死にましよう，
私はきっと川に身を投げて，悲鳴と共に水しぶきを上げましよう。

男：阿瑪娜啊！

我没有想到你這樣痛苦，
我没有夢到你這樣傷心。
我家裏是有一個人了，
我家裏是住着一個人了，
那是阿爸為我訂的，
那是阿媽給我訂的。
阿爸訂的不算數，
阿媽訂的也不算數。
阿爸苦也是真苦，
阿媽飢荒真飢荒，
可是他們還沒有為我受過苦，
還沒有為我受過飢荒，
如今啊，
我要叫他們為我受受苦，
我要叫他們為我受受飢荒*4！
咱兩個啊，
要是可以一同受苦啊，
要是能够一同憂愁啊，
不見哥哥你不要跳水，
不見哥哥你不要吃毒藥。
要是那樣，
沒有人餵你解毒的藥啊，
沒有人把你從水裏撈起來啊。
阿瑪娜啊！
数清你爸吃了幾条牛，

アマナよ！

あなたがこれ程苦しんでいるとは知らなかった，
あなたがこれ程悲しんでいるとは思ってもみなかった。
私の家にはすでに一人いる，
すでに一人住んでいるのだよ，
それは父さんが私にとあてがったもの，
それは母さんが私にと娶ってくれたもの。
父さんは何も考えずに決めた，
母さんは何も考えずに娶った。
父さんはそれは苦しんでいたけれど，
母さんは本当に困っていたけれど，
でも私のせいで苦しんだのではなかった，
私のせいで困ったのではなかった，
今こそ
私のせいで父さん母さんを苦しめ，
私のために父さん母さんを困らせよう！
私たち二人，
共に苦しむことができるのなら，
共に思い悩むことができるのなら，
この兄さんのいない時に川に身を投げてはいけないよ，
この兄さんのいない所で毒をのんではいけないよ。
もしそんな事をしたら，
毒消しをのませてくれる人がいない，
川から引き上げてくれる人が誰もいない。
アマナよ！
あなたの父さんが牛を何頭食べたかきちんと数えておくれ，

記好你爸喝了幾杯酒。
吃了的牛退給他，
吃了一条退兩条；
喝了的酒還給他，
喝了一杯還兩杯。
你嚇唬你男人，
就說你要去跳河，
我教你掙水淺處跳；
就說你去吃毒藥，
我教你找芋頭根來吃。
你給你男人啊，
梳頭啊別給他梳通；
打辮子啊別給他打到底，
要不然啊，
也許他会丟不開你，
也許他会捨不得你。
咱兩個啊，
只怕是相愛到半路，
只怕是相好到半途，
那時候啊，
你会想念你阿爸啊，
你会記掛你阿媽啊。

あなたの父さんが酒を何杯のんだかよく覚えていておくれ。
食べた牛を返そう，
一頭食べたら二頭返そう；
飲んだ酒を返そう，
一杯飲んだら二杯返そう。
旦那を嚇しなさい，
川に身を投げると言って，
そしていざ身を投げる時には浅い所に飛び込むように；
毒を呑むと言いなさい，
そして毒の代わりに芋を食べるように。
旦那には，
決して髪など梳いてやらぬよう；
決して髪など編んでやったりせぬように，
もしそんな事をしてやれば，
あいつはあなたを手放せなくなってしまうから，
あいつはあなたを諦められなくなってしまうから。
私たち二人は，
中途半端にしか愛しあっていないことだけが気がかり，
生半可にしか好きあっていないことだけが気がかり，
そんな時はきつと，
あなたは父さんのことを考えているのだろう，
あなたは母さんのことを氣にかけているのだろう。

女：在丈夫家的那個屋裏，
在婆婆家的那個走廊上，
再呆一年也不能呆了，
再過一月也不能過了，
晴天啊有小蜂子叮，
雨天啊有蚊子咬，

旦那の家の中には，
姑の家の周りには，
もう一年なんてとても住めない，
一月だって過ごせやしない，
晴れた日には蜂がうるさく飛び回り，
雨の日には蚊が人を刺す，

整夜苦，夜好長啊，
成天愁，日子好長啊。
那一年你阿爸啊，
他在打獵時傷了腳了嗎？
他在尋蜂蜜時瞎了眼了嗎？
他看不見哪裏住着你的情人；
他不知道哪裏藏着蜂蜜。
也說不定啊，
是你那個人喜歡你了吧？
她用薔薇花刺把你勾住了吧*⁵？
你要真想我啊，
你要是真愛我啊，
他家的訂礼沒有背來，
你的訂礼該先背來啊；
他家的采礼沒有送到，
你的采礼該先送到啊。
阿瑪娜我啊，
頭髮又不如你那個人烏，
臉上皮膚又不如她嫩，
恐怕日後啊，
咱兩個只能相愛到半路，
只能相好到半途，
過了一陣啊，
要是你的家族人不多，
要是你的親屬人不廣，
叫阿爸阿媽把我找到了，
叫他們家的人把我抓住了，
他的那個家裏啊，
婆家那個屋裏啊，

一晚中思い悩む，何て長い夜なんだろうと，
一日中鬱々としている，何て長い一日なんだろうと。
あの一年の間に，
あなたの父さんは狩りの時に足にけがでもしたの？
あなたの父さんは蜂蜜採りの時に目をやられてもしたの？
彼はそこにあなたのこいびとが住んでいるのが見えなかった；
彼はそこに蜂蜜が隠されているのを知らなかった。
そのうえわからない，
あなたのそのひとはあなたを好きなのかしら？
彼女は薔薇の花のようにその棘であなたをつなぎ止めようとするのかしら？
あなたが本当に私のことを想って下さっているのなら，
あなたがもし本当に私を愛して下さいのなら，
旦那の家からの結納はまだ来ていない，
あなたの結納をぜひ先に持ってきて下さい；
旦那の家からの結納はまだ届いていない，
あなたの結納をきつと先に届けて下さい。
私アマナは，
髪はあなたの奥さんほど黒く艶やかではないし，
顔の皮膚も彼女ほど柔らかくはない，
これから先，
私たちは中途半端にしか愛しあえないことが気がかり，
生半可にしか好きあえないことが気がかりです，
しばらくすれば，
あなたの一族の人が多くなければ，
あなたの親戚のつながりが広くなければ，
私は父さん母さんに捜し出されてしまうでしょう，
旦那の家の者に捕まえられてしまうでしょう，
旦那のいるあの家には，
姑のあの家には，

我是絕不轉回去的，
我是絕不折回去的。
要是逼我轉回去，
要是逼我折回去，
我就吃你箭囊裏的毒藥毒死，
我就用你弩弓上的弦索吊死！
阿爸我也不想了啊，
阿媽我也不想了啊，
阿爸把我苦死了！
阿媽叫我傷心死了！

男：咱兩個啊，
心裏想的也是一樣，
肺裏想的也是一樣。
咱兩個啊，
心合成一個心吧，
肺結成一個肺吧。
阿爸作主的事情不体面，
阿媽許配的婚姻不光彩。
哥哥我啊，
阿爸的家族名氣大，
阿媽的家族聲望高*⁶，
人也多，牛也多，
勞動力也強，家財也富*⁷，
絕不會讓你轉回去，
絕不會叫你折回去。
上方*⁸有阿爸的親族，
下方是阿媽的親族，
咱兩個啊，

私はもう二度と帰りたくない，
なにがあっても戻りたくないの。
もし無理に帰そうとすれば，
もし無理に戻そうとすれば，
私はその場であなたの矢袋の中の毒を吞んで死にましよう，
私はその場であなたの^{いしひら}弩で首を括って死にましよう！
父さんの事なんかもう考えていません，
母さんの事なんかもう気にしていません，
父さんは私を死ぬほど苦しめたのです，
母さんは私を死ぬほど悲しめたのです。

私たち二人は，
心に想う事はひとつ，
心に思い描く事も同じだ。
私たち二人は，
心は一つになり，
肺腑も一つになる。
父さんのやったことは面子が立たない，
母さんのやったことは生彩がない。
私，兄さんは，
父さんの一族は名声が高い，
母さんの一族は人望がある，
人も多く，牛も多い，
人手も充分で，財産も豊か，
決してあなたを帰しはしない，
決してあなたを戻らせたりはしない。
南の高地には父さんの親戚がいる，
北の低地には母さんの親戚がいる，
私たち二人は，

逃出去時連口糧都不用背，
回來時連盤纏也不用帶。
個個漢人都是我的朋友，
個個怒族人都是我的相好。
我遇到漢族就說漢話，
我遇到怒族就說怒族話。
阿瑪娜啊，
把你的辮子梢剪給我吧*⁹！
把你的衣襟角割給我吧！

逃げる時に食糧はいらない，
帰る時に路銀はいらない。
漢人は皆私の友達だ，
怒人は皆私と仲良しだ。
私は漢人にあえば漢語を話す，
私はヌー族^{☆1}にあえばヌー語を話す。
アマナよ，
あなたのお下げを少し切り取って私におくれ！
あなたの着物の衿をちょっと裂いて私におくれ！

女：年輕的人啲，
今天這一天啊，
今晚這一晚啊，
我心裏的痛苦沒有了，
我心裏的憂傷消失了。
我想把辮子梢剪給你，
怕你嫌我的頭髮黃；
我想把衣襟角割給你，
怕你嫌它是粗布。
真想我啊你就給我刻木契*¹⁰，
真愛我啊你就給我劃箭幹*¹¹。

年若い人よ，
今日という日は，
今晚こそは，
私の心の痛みは取り除かれました，
私の心の憂いは消え去りました。
私はあなたにお下げを切って差し上げたいのですが，
髪の色が黄色いと嫌われるのが心配なのです；
私はあなたに衿を裂いて差し上げたいのですが，
粗末な布だと嫌われるのが怖いのです。
本当に私のことを想っているのならあなたが刻んだ木契を私に下さい，
本当に私のことを愛しているのならあなたが劃した矢を私に下さい。

男：咱兩個若是真相好啊，
咱兩個如果真相愛啊，
就別提粗布這樣的話了吧，
織粗布的才是能幹人*¹²；
就別說頭髮黃這樣的話了吧，
生黃頭髮的才是漂亮人。
真相好，就不用刻木契了，

私たち二人が本当に魅かれあっているのなら，
私たち二人が本当に愛しあっているのなら，
布が粗末だなんてそんなことを言うもんじゃないよ，
粗い布を織るのは腕のたつ人だけ；
髪が黄色いなんてそんなことを言うもんじゃないよ，
黄色い髪の人には美人だよ。
本当に魅かれあっているのなら，木契なんて必要ないさ，

真相愛，就不用劃箭幹了。
把你的短上衣^{*13} 丟給我吧，
我要穿在裏面一直穿到旧^{*14}；
把你的花腰帶^{*15} 扔給我吧，
我要繫在裏面一直繫到旧。
哥哥我啊，
我就把紅線^{*16} 甩給你，
我就把黑線拋給你。

女：年輕的人喲，
木契不能不刻啊，
箭幹不能不劃啊。
不能反的是箭幹，
不能悔的是木契。

男：既是你不答應啊，
既是你不允許啊，
那就刻在麻栗樹的樹心上吧，
那就刻在板栗樹的樹心上吧。

女：咱兩個啊，
逃啊就有了逃的名啦，
跑啊就担了跑的名啦，
刻在麻栗樹心上不好，
刻在板栗樹心上不好，
板栗樹心毛虫吃，
麻栗樹心嗎蟻咬。
年輕的人喲，
比這個更好的地方沒有了嗎？

本当に愛しあっているのなら、矢なんかいらないさ。
あなたのその短い上着をぬいで私におくれ、
着物の下にそれを着込んでボロボロになるまで肌から離さないよ、
あなたのその飾り帯を解いて私におくれ、
着物の下でそれを締めて破れるまで結び続けるよ。
私、兄さんは、
あなたに紅い糸をあげよう、
あなたに黒い糸をあげよう。

年若い人よ、
木契を刻まないわけにはいきません、
矢を劃さないわけにはいかないのです。
抗えないのが矢です、
取り消せないのが木契です。

あなたがどうしてもと言うなら、
あなたがそれが無くてはと言うのなら、
麻栗の木のコに刻もう、
板栗の木のコに刻もう。

私たち二人は、
逃げるなら逃げる口実がいります、
去るなら去るための名目が必要です、
麻栗のコに刻むのは良くありません、
板栗のコに刻むのは良くありません、
板栗のコは毛虫に食われてしまいます、
麻栗のコは蟻にかじられてしまいます。
年若い人よ、
ここよりもいい場所はないのですか？

比這個更好的東西沒有了嗎？

これよりもいい物はないのですか？

男：你若是不答應啊，
你若是不允許啊，——
耕田的犁杖拐三個彎，
修拉卦葉子打三道捲^{★17}，
哥哥說的話不會變樣，
哥哥說的話不會翻悔，
就像裝弩機那樣嚴緊^{★18}，
就像刻箭槽那樣準確^{★19}。
我給你在銅鐺子上刻木契吧，
我給你在綢包頭上寫字吧，
鏽不了的是銅鐺子，
蛀不了的是綢包頭，
包起來爸也看不出，
戴起來媽也不知道。
沒有比這個更好的了，
沒有比這個更好的了。

あなたは承知してくれないようだけれど，
あなたは納得してくれないようだけれど，——
田を耕す犁の柄は三度曲がっているけれど，
シュウラグアの葉は三度振れているけれど，
私の言うことは変わらない，
私の言うことは翻らない，
かまえた弩のようにぴんと張りつめているのです，
つがえた矢のように正確なのです。
私は銅の腕輪に木契を刻んであなたにあげよう，
私はかぶりものに字を書いてあなたにあげよう
錆びないのが銅の腕輪です，
虫に喰われないのが絹のかぶりものです，
かぶってしまえば父さんに見つかることはない，
はめてしまえば母さんに知られることもない。
これより良い方法はないのだよ，
これより良い方法はないのだよ。

女：你這個遇見倭族人說倭族話的人！
你這個遇見怒族人說怒族話的人^{★20}！
銅鐺子會上鏽的！
綢包頭虫要蛀的！
咱兩個啊，
逃啊也有了逃的名了！
跑啊也担了跑的名了！……

トールンの人^{★2}に会えばトールンのことばで話す人よ！
ヌーの人に会えばヌーのことばで話す人よ！
銅の腕輪は錆びるものです！
絹のかぶりものは虫に喰われるものです！
私たち二人には，
逃げるには逃げる口実が必要です！
去るには去るための名目が必要です！……

男：阿瑪娜啊！
你若是不答應啊，

アマナよ！
あなたがそれで承知してくれないなら，

你若是不允許啊，
堅固不過的是岩石，
牢靠不過的是大樹，
那就刻在岩石上吧，
那就刻在大樹上吧，
地動岩石也不動，
箒揺大樹也不揺。

あなたがそれで納得できないのなら，
固いことこの上ないのが岩，
しっかりしていることこの上ないのが大木，
それでは岩の上に刻もう，
それでは大木の上に刻もう，
地面が動いても岩は動かない，
竹藪が揺れても大木は揺れない。

女：岩石帯也帶不動，
大樹背也背不走，
将来我們還要生兒哪！
将来我們還要養女哪！
更好的地方没有了嗎？
更好的法子没有了嗎？

岩は持って行きたくても動かさせません，
大木は背負って行きたくても背負えませんが，
これから私たちは息子を生まなければなりません！
これから私たちは娘を育てなくてはなりません！
もっと良い場所はないのですか？
もっと良い方法はないのですか？

男：你若是不答應啊，
你若是不允許啊，
我給你刻在箭囊底*²¹，
我給你劃在箭筒底*²²，
弩弓哥哥隨身帶，
箭囊哥哥到处背，
外人看也看不出，
別人猜也猜不到。
這你可就能相信了吧？
這你可就放得心了吧？
咱兩個現在該可以逃了，
咱兩個現在該可以跑了。

あなたが承知しないというのなら，
あなたが納得できないというのなら，
私は簾の底に刻んであなたにあげよう，
私は矢筒の底に刻んであなたにあげよう，
弩はいつも私が携えている物，
簾はいつも私が担いでいる物，
外で人に見られても分からない，
誰かに疑われてもばれることはない。
これならあなたに信じてもらえるかい？
これならあなたに安心してもらえるかい？
私たちはこれで逃げることができる，
私たちはこれで去ることができる。

女：年輕的人啲，

年若い人よ，

雖說是刻在箭囊底，
雖說是劃在箭筒底，
我啊還是不相信，
我啊還是不放心。
年輕的人喲，
更好的木契沒有了嗎？
更好的箭幹沒有了嗎？
你再不給我刻呀，
我吃你箭囊裏的毒藥毒死了吧！
我用你弩弓上的弦索吊死了吧！

簾の底に刻んだといっても、
矢筒の底に刻んだといっても、
私にはまだ信じられません、
私はまだ安心できません。
年若い人よ、
もっと良い木契はないのですか？
もっと良い矢はないのですか？
あなたがもう刻んでくれないというのなら、
私はあなたの弩の中の毒を飲んで死にます！
私はあなたの弩の弦で絞れて死にます！

男：阿瑪娜啊，
別難過呀別難過！
別懊惱呀別懊惱！
咱兩個啊，
身体不結合不甘休，
生命不匯合不停止。
你若是不答應啊，
你若是不允許啊，——
哥哥我啊，
給你在蟒蛇皮上写字，
給你在象骨頭上刻木契，
外人知也不知道，
別人猜也猜不出。

アマナよ、
無理をお言いでないよ！
あんまり悩まないでくれ！
私たち二人は、
この身がひとつになるまでは諦めるわけにはいかない、
命がひとつになるまでは投げ出すわけにはいかない。
あなたが承知してくれないのなら、
あなたが納得できないというのなら、——
兄さんのわたしは、
大蛇の皮に字を書いてあなたにあげよう、
象の骨に木契を刻んであなたにあげよう、
他の人が知ろうとしても分からない、
誰かに疑われてもばれることはない。

女：我還是不很相信，
我還是不大放心。
更好的木契沒有了嗎？
更好的箭幹沒有了嗎？

私はまだ信じ切れません、
私はまだ安心し切れません。
もっと良い木契はないのですか？
もっと良い矢はないのですか？

什麼象骨頭啊！

什麼蟒蛇皮啊！

我還是不相信！

我還是不放心！

以後外人會知道的，

以後別人會猜出來。

何が象の骨でしょうか！

何が大蛇の皮でしょうか！

私にはまだ信じられません！

私はまだ安心できません！

そのうちに他の人に知れてしまうに決まっています，

そのうちに他の誰かに疑われるに決まっています。

男：你若是不答應啊，

你若是不允許啊，一

咱兩個啊，

身体不結合不甘休，

生命不匯合不停止，

赶明天啊，

到没有人到的地方去吧，

到没有人看見的地方去吧，

到七叉路口去相會吧，

到九叉路口去見面吧，

在七叉路口相會的時候，

在九叉路口見面的時候，

我一定能叫你相信，

我一定会讓你放心。

在七呀七叉路口，

在九呀九叉路口，

殺一雙頭生的狗，

瀝一雙頭生雞的血，

叫三声天，

拍三下地^{*23}，

賭下鬼翻悔鬼死的咒，

賭下人翻悔人死的咒，

あなたが承知してくれないのなら，

あなたが納得できないというのなら，一

私たち二人は，

この身が一つになるまではあきらめるわけにはいかない，

命が一つに合わるまでは投げ出すわけにはいかない，

明日になったら，

誰も行ったことのない所へ行こう，

誰も見たことのない所へ行こう，

七叉路でおち合おう，

九叉路で逢おう，

七叉路でおち合った時には，

九叉路で逢った時には，

きっとあなたに信じてもらえる，

きっとあなたに安心してもらえる。

七の七叉路で，

九の九叉路で，

一匹の犬を屠って，

一羽の鶏の血を撒いて，

三度天に向かって叫び，

三度地面を踏み鳴らし，

裏切れば鬼も死ぬという誓いを立てよう，

裏切れば人も死ぬという誓いを立てよう，

女の愛心女の当、
男の愛心男の応。
阿瑪娜啊，
我們賭過女的愛心女的死的咒了，
我們賭過男的愛心男的死的咒了。

女の心変わりとは女の責任、
男の心変わりとは男の責任。
アマナよ、
私たちは女が心変わりしたら女が死んで償うという誓いを立てよう、
私たちは男が心変わりしたら男が死んで償うという誓いを立てよう。

女：現在我就相信了！
現在我就放心了！
我們一個就做阿爸吧！
我們一個就做阿媽吧！

今ようやく私はあなたを信じることができます！
今私はやっと安心することができました！
私たちは一人の父親になりましょう！
私たちは一人の母親になりましょう！

男：我們賭過不翻悔的咒啦，
我們賭過不變心的咒啦，
往後不会回頭啦，
将来沒有牽掛啦。
咱兩個啊，
明天就可以放心地逃啦，
明天就可以放心地跑啦，

私たちは決して裏切らないと誓った、
私たちは決して心変わりしないと誓った、
これからはもう後ろを振り返ることはない、
これから先は何の気掛かりもない。
私たち二人は、
明日になれば安心して逃げることができる、
明日になれば安心して去ることができる。

女：從今天起，阿瑪娜我啊，
舂糧食一次舂兩碓，
留下一碓不告訴阿爸；
織布一次織兩疋，
留下一疋不告訴阿媽。
舂糧食一次舂兩碓，
一碓藏在樹洞裏；
織布一次織兩疋，
一疋藏在岩洞裏。

今日から、私アマナは、
米を搗くときは一度に二碓搗きましょう、
余った一碓は父さんには内緒；
布を織るときには一度に二反織りましょう、
余分の一反は母さんには内緒。
一度に二碓搗いた米は、
一碓分は木の洞に隠しましょう；
一度に二反織った布は、
一反は岩穴の中に隠しましょう。

男：年輕人我啊，

掙銀子一次掙二兩，

留下一兩不告訴阿爸；

淘金子一次淘二錢，

留下一錢不告訴阿媽。

我想着你時去掙錢啊，

掙起錢來像滔水樣容易；

我為了你去淘金子啊，

買起牛^{*24}來像往山下滾木頭樣輕快。

阿瑪娜啊，

你春出來藏在樹洞裏的那些米啊，

你織出來藏在石洞裏的那些布啊，

樹洞裏的快被老鼠啃光啦，

岩洞裏的快被麻雀啄完啦，

過了一夜像過一生，

過了一天像過一世，

霧氣一起，馬上冬天就到了，

新月才出，轉眼月亮又圓了。

年若い私は、

金を稼ぐときには一度に二兩稼ごう、

余った一兩は父さんには秘密；

金を儲けるときには一度に二錢儲けよう、

余った一錢は母さんには秘密。

私はあなたのことを想って金を稼ごう、

稼ぐことは水を汲むぐらいいたやすいこと；

私はあなたのために金を儲けよう、

牛を買ってあなたの結納を賠償し、そして身軽になろう。

アマナよ、

あなたが余分に搗いて木の洞に隠したあの米は、

あなたが余分に織って岩穴に隠したあの布は、

木の洞に置いたのではあつという間に鼠に喰われてしまう、

岩穴に隠したのでは瞬刻間に雀に啄まれてしまう、

一夜を過ごすのがまるで一生を過ごすよう、

一日を過ごすのがまるで一生を過ごすよう、

霧が湧き起こり、もうすぐ冬がやって来る、

新月がやっと出たと思ったら、あつという間に満月だ。

女：年輕的人啲，

我曳着你的箭囊底板來啦！

我抓着你的刀鞘梢頭來啦！

年若い人よ、

私はあなたの藤の底を引き抜いてしましましょう！

私はあなたの刀の鞘を抜いてしましましょう！

男：咱兩個啊，

不能像兵士一樣說走就走，

不能像老鷹一樣說飛就飛。

來不及紡的麻繞起來背着，

沒有織完的布截下來帶着。

麻線繞子都可以忘記，

私たち二人は、

兵士のように行くと決めたからと言ってすぐ出発するという訳にはいかない、

鷹のように飛ぼうとしても飛べる訳ではない。

紡ぎ終えていない麻糸を背負って、

織り終えていない布を持って。

麻糸の糸巻きは忘れても、

穀物種子千万不要忘了。

咱兩個啊，

明年要靠它過日子哪！

後年要靠它立家業哪！

穀物の種はゆめゆめ忘れないように，

私たち二人は，

来年はその種を頼りに日々を過ごさなくてはならないのだから！

これからはその種を頼りに生きていかなければならないのだから！

女：南瓜種我也預備啦，

黃瓜種我也預備啦。

腰帶纏上它兩道，

南瓜種就囊在裏辺；

辮子打上兩個辮花，

黃瓜種就編在裏頭。

カボチャの種は私が用意しましょう，

キュウリの種は私が用意しましょう。

帯を二重に巻きつけて，

カボチャの種はその中に；

お下げを二本編んで，

キュウリの種はその中に編み込みましょう。

男：等我来做兩張弩，

等我来打兩把刀。

殺人的弩弓阿登^{*25} 帶，

射鳥的弩弓阿娜^{*26} 帶。

五拵長的刀哥哥掛，

砍柴的刀阿娜掛。

咱兩個跑的時候好太陽，

追赶的人遇上下雨天。

逃的人後面跟着野老鼠，

追的人後面竄着黃鼠狼：

野老鼠越跑越向前，

黃鼠狼越追越落後^{*27☆3}。

倘若你那個傢伙赶来，

我向他射出飛石樣的鉄箭，

倘若你那個東西赶来，

我向他發出暴雨樣的毒箭。

你那個傢伙啊，

二張の弩を作るまで待ってくれ，

二振の刀を作るまで待ってくれ。

人をめ殺すアトゥンの弩を持って，

鳥を射るアナの弩を持って。

掌五つ分の長刀は私が，

柴刈り用の刀はあなたが持って。

私たち二人が駆けるときには陽が照って，

追手の上には雨が降る。

逃げる人の後ろには野鼠が従い，

追手の後ろからはイタチがついていく：

野鼠は走るほどに前を行き，

イタチは追えば追うほど遅れを取る。

もしあなたの旦那が追いかけて来たら，

私はあいつに飛ぶ石のような鉄の矢を射てやる，

もしあいつが追いかけて来たりしたら，

私は毒矢を雨のように浴びせてやる。

あいつは，

他拔不出五拵長的大刀，
他扳不動一人高的硬弩。
哥哥我啊，
五拵長的大刀拔出來嗖嗖的響，
一人高的硬弩扳得憂憂的叫。
大刀比着他的腿彎，
他的腿彎顫得像弓弦；
硬弩瞄着他的胸脯，
他的胸脯抖得像簸糠。
你的那個死傢伙啊，
你的那個死東西啊，
他砍呀砍的砍來一刀，
砍在身上像茅草葉子割了一下；
他射呀射的射來一箭，
射在身上像蒿子稈刺了一下。
你不用害怕不用害怕，
你不用担心不用担心，
哥哥我啊，
腦袋結實得像鵝卵石，
生命頑強得像苦藤根。
哥哥射他一箭啊，
他的毒肉就剝也剝不尽^{*28}；
哥哥砍他一刀啊，
他連補藥吃都吃不進口^{*29}。
遇着漢族哥哥懂漢話，
遇着怒族哥哥懂怒族話。
你若是你爸的大女兒，
我帶你從北方走；
你若是你媽的小女兒，

長刀を抜く間もあるまい，
人の背丈もある強弓はつがえる間もあるまい。
私は，
長刀を抜いてヒュンヒュンと風を切ろう，
人の背丈もある強弓をピンピンと張ろう。
刀はあいつの膝の裏側に当たって，
あいつの膝は弓の弦みたいに震える；
強弓はあいつの胸ぐらに狙いをつける，
あいつの胸は鎌を篩う時のように波打つ。
あなたのあの腐ったような旦那は，
あのどうしようもない奴は，
あいつが刀で一打ちしても，
身体の上に振り下ろされてもカヤの葉で斬られるようなもの；
あいつが矢を射ても，
身体に当たってもシュンギクの葉で刺されるようなもの。
あなたは怖がることなどないのだよ，
心配することなど何もないのだよ，
私は，
頭は石のように堅い，
命は藤の根のように頑丈だ。
私があいつに向けて一矢を射ると，
毒の回った肉を抉り取ることはできない；
私があいつに一太刀浴びせると，
薬を飲もうにもそれが喉を通らない。
漢族に出会っても私は漢語が分かる，
ヌー族に出会っても私はヌー語が分かる。
あなたが父さんの一番上の娘なら，
私はあなたを連れて北へ行こう；
あなたが母さんの末の娘なら，

我帶你從南方走★³⁰。

私はあなたを連れて南へ行こう。

女：從北方那條路走啊，
恐怕積雪要垮下來；
從南方那條路走啊，
恐怕麻栗樹葉會把我滑倒。

北へ向かうあの道に行くのは、
雪が積もって難儀するのでは心配です；
南へ向かうあの道に行くのは、
麻栗の葉に足を取られるのではないかと心配です。

男：你不要愁這樣愁那樣，
你不要怕這樁怕那樁，
哥哥我啊，
你走不過的地方背你走；
你跳不過的地方攙你跳，
弩搭橋讓你過，
弩弦拴溜給你溜★³¹。
逃過一天的路程啊，
跑到一個站口啊，
到了生實心竹的地方，
到了生黃楊樹的地方，
用黃楊樹來打布機，
用實心竹來編機凳，
背上前面說的那截布，
背上前面說的那團麻，
咱兩個啊，
帶着它逃得遠遠的，
帶着它跑得遠遠的。

あなたはあれこれ思い悩むことはない，
あなたはあれこれと心配することはないのだよ，
私は，
あなたが歩けない所では背負ってあげよう，
あなたが跳び越えられない所が私が抱えて跳び越えよう，
弩で橋を架けてあなたを渡してあげよう，
弩の弦を索にしてあなたを渡してあげよう。
一日中逃げて，
走り着くのは，
実心竹の生えるところ，
つげの木の生い茂るところ，
つげの木で機を作り，
実心竹で家具を作ろう，
前に言ったあの織りかけの布を背負って，
前に言ったあの紡ぎかけの糸を背負って，
私たち二人は，
それを持っていれば遠くへ逃げる事ができる，
それをもっていれば遠い所までたどり着ける。

女：阿瑪娜我啊，
一天織布要織三段★³²！
一夜紡麻要紡三团！

私アマナは，
一日に三丈の布を織りましょう！
一夜に三かせの糸を紡ぎましょう！

男：縫兩件寬寬長長的衣服，
衣服寬長好平雪★³³；
打兩双結結實實的棕窩子★³⁴，
棕窩子結實好踩雪。

女：踩雪的棕窩子十二双，
誰也沒看見時我就打好啦！
平雪的衣服十二件，
誰也不知道時我就縫好啦！
衣服下擺飄飄的，
平起雪來多合用；
棕窩子筒子長長的，
踩起雪來多利索。

男：咱兩個啊，
雪山啊雪山也翻過來啦！
雪地啊雪地也度過來啦！
逃啊逃到了其拖扒，
跑啊跑到了科臘噴★³⁵，
我們在這裏，
來開一塊荒地，
來砍一塊火地★³⁶，
阿瑪娜啊！
試試在地頭種上南瓜★³⁷，
看看南瓜結不結瓜？
試試在地尾種上黃瓜，
看看黃瓜開不開花？

女：地頭種下的南瓜，

ゆるくて長い着物を二枚縫っておくれ，
着物がゆったりしていれば雪がならされて足跡もわからない；
二足のきっちりとしたシュロの雪沓を作っておくれ，
シュロで編んだ雪沓は雪をしっかりと踏みしめることができる。

シュロの雪沓はたとえ十二足だろうと，
誰も見ていないうちに私は編み上げることができます！
雪を均す着物はたとえ十二枚だろうと，
誰にも知られずに私は縫い上げることができます！
着物の裾はふわふわにして，
雪を均すのにいっそう都合の良いようにしましょう；
雪沓は深く深く作って，
雪の上を歩くのにいっそう都合の良いようにしましょう。

私たち二人は，
雪山があれば雪山を越えよう！
雪原があれば雪原を渡っていこう！
逃げて其拖扒まで逃げていこう，
走って科臘噴まで奔っていこう，
私たちはここで，
荒地を開墾し，
土地を焼いてそして耕そう，
アマナよ！
試しにカボチャの種を蒔いてみよう，
カボチャは稔るか稔らぬか？
試しにキュウリの種を蒔いてみよう，
キュウリの花は開くか開かぬか？

先に蒔いたカボチャは，

南瓜啊它不結瓜；
地尾種下的黃瓜，
黃瓜啊它不開花。
這不是我們生活的土地，
這不是我們要的筭。

男：這樣的話，
等我再找一片好地，
等我再找一片好筭。
咱們翻密支山吧，
咱們過三能山吧。
等到過了密支山啊，
等到過了三能山啊，
就看見平壩子啦，
就看見斜坡地啦，
哥哥我啊，
要在這裏開一塊荒地，
要在付近砍一塊火地。

女：年輕的人啊，
你開出来的那塊荒地啊，
你砍出来的那塊火地啊，
地頭試種了南瓜，
南瓜啊它不結瓜；
地尾試種了黃瓜，
黃瓜啊它不開花。
這不是咱們生活的土地，
這不是咱們要的筭。
更好的地方沒有了嗎？

カボチャは実を結ばない；
次に蒔いたキュウリは，
キュウリは花を開かない。
ここは私たちの暮らす所ではありません，
ここは私たちが捜し求めている土地ではありません。

そういうことならば，
私が別の土地を捜して来よう，
もっと他の谷間を捜して来よう。
私達は密支山を越えよう，
私達は三能山を越えよう。
密支山を越えたら，
三能山を越えたら，
平らな盆地が見えてくる，
なだらかな斜面が見えてくる，
私は，
ここで荒地を開墾しよう，
ここで土地を焼いて耕そう。

年若い人よ，
あなたが拓いたその荒地で，
あなたが焼いて耕したその土地で，
試しにまずカボチャを植えたけれど，
カボチャは実を結ばない；
次にキュウリを植えてみたけれど，
キュウリは花を開かない。
ここは私たちの暮らす土地ではありません，
ここは私たちが捜し求めていた谷間ではありません。
もっと良い場所はないのでしょうか？

更好的箐没有了嗎？

もっと良い土地はないのでしょうか？

男：世界上的土地寬着哩，
世界上的箐長着哩。
咱們再找一片好地，
咱們再找一条好箐。
哥哥我啊，
帶着你再往前去，
攙着你再往前走。
在密支那那裏啊，
在馬克箐那裏啊，
就会遇見平壩子啦，
就会遇見盆地啦。
這就是咱們生活的土地了，
這就是咱們要的箐了。
等看到了平壩子的時候，
等看到了盆地的時候，
哥哥我啊，
來開一塊茅草地，
來挖一塊蒿枝地*³⁸。

世の中にはもっと広い土地がある，
世の中にはもっと条件の良い谷間がある。
私たちはもっと別の土地を捜そう，
私たちはもっと別の谷間を捜そう。
私は，
あなたを連れて先へと進もう，
あなたと一緒に前へ進もう。
密支那にいれば，
馬克箐にいれば，
平らな盆地がある，
盆地が見つかる。
ここが私たちの暮らす土地，
ここが私たちが捜し求めている谷間。
平らな盆地に着いたなら，
盆地にたどり着いたなら，
私は，
チガヤの生い茂る土地を開墾しよう，
ヨモギに覆われた土地を耕そう。

女：你開的那塊茅草地啊，
你挖的那塊蒿枝地啊，
地頭種下了豆子，
豆子叫斑鳩刁去了；
地尾種下了小米，
小米叫鸚鵡啄完了。
這不是咱們生活的土地，
這不是咱們要的箐。

あなたが拓いたその土地で，
あなたが耕したその場所で，
始めに豆を蒔いたけれど，
豆は皆キジバトに食べられてしまった；
次に粟を蒔いてみたけれど，
蒔いた粟は皆インコに食べられてしまった。
ここは私たちが暮らす土地ではありません，
ここは私たちが捜し求めている谷間ではありません。

世界上没有地了嗎？
世界上没有箐了嗎？
咱兩個啊，
生命恐怕不能匯合了吧？
身体恐怕不能結合了吧？

この世にはほかに土地はないのでしょうか？
この世にはほかに谷間はないのでしょうか？
私たち二人は、
命を通い合わせることができないのではないのでしょうか？
身体をひとつにすることができないのではないのでしょうか？

男：你別難受啊別難受！
你別傷心啊別傷心！
世界上的土地寬着哩，
世界上的箐長着哩。
咱們再找一片好地，
咱們再找一条好箐。
哥哥我啊，
領你到臘戍那辺去，
帶你到密猛那辺去。
女子生来是跟男子走的，
阿披果^{*39} 生来是給雀子吃的。
到了臘戍那裏啊，
到了密猛那裏啊，
那裏有我阿爸的親族，
那裏有我阿媽的親族。
看見那一片盆地啦，
到了那一個壩子上啦。
找一根漆樹的鋤把，
找一根漆樹的鋤鈎。
再去開一塊荒地，
再去砍一塊火地。

そんななにつらがったりしないでくれ！
悲しんだりすることはないんだよ！
世の中の土地は広い，
世の中にはまだ谷間はあるさ。
私たちはもっと良い土地を捜そう，
私たちはもっと良い谷間を捜そう。
私は，
あなたを連れて臘戍の辺りにいこう，
あなたと一緒に密猛の辺りにいこう。
女は生まれつき男の後からついてくるもの，
アビの実は雀に食べられるためのもの。
臘戍に着いたら，
密猛に着いたら，
そこには私の父さんの親戚がいる，
そこには私の母さんの親戚がいる。
その盆地を見つけたら，
その平らな土地に着いたなら。
ウルシの木を見つけてきて鋤の柄にして，
ウルシの木を見つけてきて鋤の歯にしよう。
そしてまた荒地を開墾しよう，
再び土地を焼いて耕そう。

女：年輕的人嘍，

年若い人よ，

在你開的那塊荒地上，
在你砍的那塊火地上，
阿瑪娜我啊，
地頭試種了南瓜，
南瓜啊它不串藤；
在地尾試種了黃瓜，
黃瓜啊它不開花。
這不是咱們生活的土地，
這不是咱們要的箐。
世界上沒有更好的地了嗎？
世界上沒有更好的箐了嗎？
咱兩個啊，
身體恐怕不能結合了吧？
生命恐怕不能匯合了吧？

男：別難受呀別難受！
別傷心呀別傷心！
哥哥我啊，
再去找一片好地，
再去找一條好箐。
咱兩個，
身體不結合不甘休！
生命不匯合不停止！
咱兩個啊，
逃到更遠的地方去，
跑到七站路的那裏去。
別留戀阿爸了吧，
別掛念阿媽了吧。
等到了騰衝那裏，

あなたが拓いたその荒地に，
あなたが焼いたその土地で，
私アマナは，
まずカボチャの種を蒔いてみたけれど，
カボチャは蔓を伸ばさない；
次にキュウリの種を蒔いてみたけれど，
キュウリは花を開かない。
ここは私たちの暮らす土地ではありません，
ここは私たちが捜していた谷間ではありません。
世の中にはもっと良い土地はないのでしょうか？
世の中にはもっと良い谷間はないのでしょうか？
私たち二人は，
身体をひとつにすることができないのではないのでしょうか？
命を通い合わせることができないのではないのでしょうか？

そんなにづらがったりしないでくれ！
悲しんだりすることはないんだよ！
私は，
もう一度良い土地をを捜しにいこう，
もう一度良い谷間を捜しにいこう。
私たち二人は，
身体をひとつにするまでは休むわけにはいかない！
いのちが通い合うまでは留まっているわけにはいかない！
私たち二人は，
もっと遠くまで逃げていこう，
七站路の辺りまで逃げていこう。
父さんを恋しがってはいけな，
母さんを想ってはいけな。
騰衝にいけば，

等到了保山那裏，
我有一個漢族朋友，
我有一個漢族相好，
他会幫助我們，
他会招呼我們，
那裏就是咱們生活的土地，
那裏就是咱們要的箐。
阿瑪娜啊，
去試試種上南瓜籽，
看它結瓜不結瓜；
去試試種上黃瓜籽，
看它開花不開花。
這一回啊，
要是鳥雀來啄，
要是老鼠來啃，
做個扣子套它！
支塊石板壓它！

女：地頭試種了南瓜啊，
地尾試種了黃瓜啊，
地頭的南瓜啊不結瓜，
地尾的黃瓜啊不開花。
這不是咱們生活的土地，
這不是咱們要的箐。

男：再找一片好地！
再找一條好箐！
到了大理街啦，

保山にいけば，
そこには漢族の友人がいる，
そこには漢族の知り合いがいる，
きっと私たちを助けてくれるだろう，
きっと私たちをもてなしてくれるだろう，
そこは私たちの暮らす土地，
そここそは私たちが捜し求めていた谷間。
アマナよ，
そこへ行ってカボチャの種を蒔いてみよう，
稔るか稔らないかみてみよう；
そこへ行ってキュウリの種を蒔いてみよう，
花が開くか開かないかみてみよう。
今度こそは，
雀が種を啄きに來ても，
鼠が種を食べに來ても，
罌でつかまえてやる！
石の板で押し潰してやる！

始めにカボチャの種を蒔いてみたけれど，
次にキュウリの種を蒔いてみたけれど，
カボチャは実を結ばない，
キュウリは花を開かない。
ここは私たちの暮らす土地ではありません，
ここは私たちが捜し求めていた谷間ではありません。

もう一度良い土地を捜そう！
もう一度良い谷間を捜そう！
大理の街へいこう，

到了大理城啦。
你看人家住得多好！
你看人家生活得多幸福！
听说大理的麦稈能滔水，
听说大理的芋頭葉能当帽子戴。
哥哥我啊，
来這裏開一塊荒地，
在付近砍一塊火地。
阿瑪娜啊！
在地頭試種南瓜吧，
在地尾試種黃瓜吧，
要是地頭的南瓜結了瓜，
要是地尾的黃瓜開了花，
這就是咱們居住的土地啦，
這就是咱們要的箒啦。

女：地頭試種南瓜啊，
地尾試種黃瓜啊，
南瓜啊它結起瓜来啦！
黃瓜啊它開出花来啦！
黃瓜啊老鼠不咬啦！
南瓜啊麻雀不啄啦！
這是咱們生活的土地了啊！
這是咱們要的箒了啊！

男：咱兩個啊，
還要盖起実心蘆葦的房子来，
還要盖起空心蘆葦的^{*40}房子来，
哥哥我啊，

大理城へいこう。
ほら、住んでいる人達は皆親切だ！
ほら、皆の暮らしよりは幸せそうだ！
大理の麦稈は水汲みに使えるほど太いという、
大理の芋の葉は帽子の代わりになるほど大きいという。
私は、
ここで荒地を開墾しよう、
この辺りで焼いた土地を耕そう。
アマナよ！
試しにまずカボチャの種を蒔いてみよう、
次にキュウリの種を蒔いてみよう、
先に植えたカボチャが実を結んだら、
次に植えたキュウリが花を開いたら、
こここそ私たちの暮らす土地、
こここそ私たちが捜し求めている谷間。

まずカボチャの種を蒔いてみましょう、
次にキュウリの種を蒔いてみましょう、
カボチャは見事に実を結びました！
キュウリは見事に花を開きました！
カボチャは鼠に齧られたりしません！
キュウリは雀に啄まれたりしません！
こここそが私たちの暮らす土地です！
こここそが私達が捜し求めている谷間です！

私たち二人は、
芯のつまった茅で屋根を葺こう、
芯が空洞の茅で屋根を葺こう、
私は、

来找上一些樹幹，
来修上一些木料。
我啊去找石三脚；
你啊就去割蘆葦，
咱們就在這裏安家啦！
咱們就在這裏生活啦！

丸太を搜してこよう，
木材を組み立てよう。
私は竈の石を搜してくるから；
あなたは茅を刈ってきておくれ，
私たちはここで家を構えよう！
私たちはここで暮らしていこう！

女：種下の南瓜結了瓜，
種下の黃瓜開了花，
地是有地了，只是啊——
筓是有筓了，只是啊——
三脚還是鬆泡泡的石頭，
房上盖的還是碎渣渣的草，
下雨的時候会漏雨，
颶風的時候会透風。
這是咱兩個要同住一輩子的啊！
這是咱兩個要生活一輩子的啊！

カボチャは実を結びました，
キュウリは花を開きました，
土地はいい土地です，でも——
谷間はいい谷間です，でも——
竈の石はまだざらざらでごつごつの石，
屋根を葺いたのはこなごなの草，
雨が降ったら雨漏りがします，
風が吹いたらすきま風が入ってきます。
私たちはずっとここに住むというのですか！
私たちはここでずっと暮らすというのですか！

男：咱們去和漢族人交朋友，
咱們去和怒族人論相好。
漢族人個個都是咱們的朋友，
怒族人個個都是咱們的相好。
遇到漢人要說漢話，
遇到怒族人要說怒族話。
交上了朋友是工匠，
交上了相好是手藝人，
哥哥我啊，
来盖一間好房子，
来盖一座大瓦屋。

私たちは漢族の人たちと仲良くなろう，
私たちはヌー族の人たちと知り合いになろう。
漢族の人は皆私たちの友人，
ヌー族の人は皆私たちの知り合い。
漢人に会ったら漢語で話そう，
ヌー人に会ったらヌー語で話そう。
友達になった人は職人だ，
仲良くなった人は手職人だ，
私は，
良い家を一軒建てよう，
瓦葺きの立派な家を一軒建てよう。

這就是咱兩個的啊，
同住一輩子的地方了，
生活一輩子的地方了。

これが私たち二人の家だ，
ずっと一緒に住むところ，
二人して暮らしていく家だ。

女：好房子盖是盖起来了，只是啊—
大瓦屋盖是盖起来了，只是啊—
咱們還沒有鉄三脚哪！
咱們還沒有煮飯鍋哪！

素敵なおうちは建ちました，でも—
立派な家が出来上がりました，でも—
私たちにはまだ鉄の五徳がありません！
私たちにはまだ煮炊きする鍋がありません！

男：年輕人我啊，
交的那些漢族的朋友，
結拜的那些怒族的相好，
他們會給咱們送珊瑚來。
他們會給咱們送海蚌^{*41}來。
珊瑚架起當三脚，
海蚌支起做飯鍋。
阿瑪娜啊，
你心裏該快活了吧？
你心裏該高興了吧？
還有什麼不滿意的你說給我聽，
還有什麼不喜歡的你說給我聽。
咱兩個共同的生活安定了，
咱兩個獨立的日子富足了。

年若い私は，
交わりのある漢族の友人が，
兄弟分のヌー族の仲良しが，
私たちに珊瑚を贈ってくれる。
私たちにシャコ貝を贈ってくれる。
珊瑚で五徳を作り，
シャコ貝を鍋にしよう。
アマナよ，
心が軽くなってきたかい？
心がうきうきしてきたかい？
まだ満足 of いかない所があったら言ってごらん，
まだ意にそぐわない事があるなら言ってごらん。
私たち二人の暮らしはこれで落ち着いた，
私たちは二人で満ち足りた日々を過ごそう。

女：年輕人找的這片地啊，
我喜歡得很哩！
年輕人找的這條箐啊，
我滿意得很哩！
不要像松鼠一樣分開^{*42}，

年若い人がこの土地を捜して下さった，
私はとても嬉しい！
年若い人がこの谷間を見つけてくれたので，
私はとても満足です！
リスのように離れ離れになることはもうありません，

不要像小蜂一樣離開。
咱兩個啊，
要在一起過一輩子，
要在一處生活一万年。

男：阿瑪娜啊，
還要去挖地的鋤頭，
還要去置耕田的犁杖。
找挖地的鋤頭啊，
要找就找十二把；
置耕田的犁杖啊，
要置就置十二副。
哥哥我啊，
指給你一塊頭等的地，
告訴你一條最好的箐。
阿瑪娜啊，
在這塊頭等的地上，
在這條最好的箐裏，
種地一定会豐收，
織布一定会够穿，
急急忙忙地來種地吧，
一刻不停地來織布吧，
覺也不睡地織布吧！
歇也不歇地種地吧！

女：年輕的人喲！
在你選中的箐裏，
在你開墾的地裏，
阿瑪娜我啊，

蜂のように離れ離れになってしまうことはありません。
私たち二人は、
いつまでも一緒です、
一万年といえども一緒に暮らします。

アマナよ、
まだ畑を耕す鋤の齒を捜してこなくてはならない、
まだ田んぼを耕す犁の柄を取り付けなくてはならない。
畑を耕す鋤の齒は、
すぐに十二本も捜して来よう；
田んぼを耕す犁の柄は、
すぐに十二本でも取り付けよう。
私は、
あなたに一番肥えた土地を教えてあげよう、
あなたに一番良い谷間を教えてあげよう。
アマナよ、
この一番肥えた土地では、
この一番良い谷間では、
作物を作れば必ず豊作、
布を織れば着るに余るほど、
大急ぎで種を蒔こう、
一時も休まず布を織ろう、
寝る間も惜しんで機を織ろう！
休む間も惜しんで種を蒔こう！

年若い人よ！
あなたが見つけた谷間で、
あなたが拓いた土地で、
私アマナは、

我要不休息地種地，
我要不睡覺地織布，
把一壩一壩荒草變成一壩一壩糧食，
把一堆一堆蒿枝變成一堆一堆布。
咱們的福氣好，
咱們的運氣高，
打下的糧食有十二倉，
織出的布有十二疋^{*43}。
打下的糧食放在倉裏，
織出的布堆在屋裏。
別人羨慕也羨慕死啦！
別人嫉妬也嫉妬死啦！

男：咱們選啊逃出了好名声，
咱們跑啊跑出了好結果。
咱們的糧食年年數餘，
咱們的布疋年年增添，
打下的糧食放在倉裏，
織出的布堆在屋裏。
咱們頭一個兒子出世啦，
咱們頭一個女兒出世啦。
兒子就叫阿普吧，
女兒就叫阿娜吧。
你的稱呼就是阿普的媽，
你的稱呼就是阿娜的媽。

女：只叫阿普不好听！
只叫阿娜不大方！

一時も休まず種を蒔きましょう，
一睡もせずに機を織りましょう，
荒地の草を穀物に変えましょう，
蓬の山を布の山に変えましょう。
私たちは果報者です，
私たちは強い運を持っています，
刈り取った穀物は十二倉，
織り上げた布は十二疋。
刈り取った穀物は倉の中に蓄えましょう，
織り上げた布は家の中に積み重ねましょう。
他の人が羨ましがることしきりです！
他の人が妬ましく思うことしきりです！

私たちは逃げてそして名を挙げた，
私たちは逃げてそしてうまくいった。
私たちの食糧は毎年余分が出る，
私たちの布は毎年増えていく，
刈り取った穀物は倉の中に蓄えよう，
織り上げた布は家の中に積み上げよう。
私たちには一人の息子が生まれた，
私たちには一人の娘が生まれた。
息子はアプと呼ぼう，
娘はアナと呼ぼう。
そしてあなたの呼び名はアプの母さんだ，
そしてあなたの呼び名はアナの母さんだ。

アプという名は聞き苦しいわ！
アナという名は品がないわ！

男：你說得對啊，
咱孩子要是有名的人，
咱孩子要是有声望的人，
阿普取名叫阿普該，
阿娜取名叫娜依綠*⁴⁴。
阿登我啊，
好像聽見阿媽在喊我，
好像聽見阿媽在喊我。
恐怕是他們想念孫子了，
恐怕是他們想念孫女了。

あなたの言うことはもっともだ，
私たちの子供が名を挙げるようなことがあるのなら，
私たちの子供が人望を得るようなことがあるのなら，
アプはアプガイという名にしよう，
アナはナイリュという名にしよう。
私アトゥンは，
父さんが私を呼んでいるような気がする，
母さんが私を呼んでいるような気がする。
父さん母さんは孫息子のことを想っているのではないだろうか，
父さん母さんは孫娘のことを念じているのではないだろうか。

女：這樣說起來啊，
阿普回家的礼物*⁴⁵ 還沒有哪，
阿娜回家的礼物還沒有哪。
咱們不能兩手空空地回家去，
咱們不能兩手空空地轉回去。

そんなことを言っても，
アプを連れて帰るときの手土産がありません，
アナを連れて帰るときの手土産がありません。
私たちは手ぶらで帰ることはできません，
私たちは手ぶらで戻ることはできません。

男：孩子的媽啊！
你別癢愁呀別癢愁，
你別着急呀別着急，
回家的礼物哥哥去找，
進門的礼物哥哥去尋。
咱們攆狐狸時會取到麝香，
咱們翻樁象*⁴⁶ 時會翻到金子，
拿着取到的麝香，
拿着翻到的金子，
哥哥就去赶漢族的街*⁴⁷，
哥哥就去赶藏族的街，
卖了麝香買一對闖山羊；

子供の母さんよ！
あなたは思い悩むことなどないのだよ，
あなたは先を急ぐことはないのだよ，
帰るときの手土産は私が捜して来よう，
戻るときの手土産は私が調達して来よう。
私たちは狐狩りのときに麝香を探ることができる，
私たちはロアを掘るときに金を掘ることができる，
その麝香を持って，
その金を持って，
私は漢族の市へいこう，
私はチベット族の市へいこう，
麝香を売って一對の去勢山羊を買おう；

卖了金子買一對闊綿羊，
把山羊皮做成背衫；
把綿羊皮做成抱被。
山羊皮背衫背阿普；
綿羊皮抱被抱阿娜，
年輕人我啊，
把阿普背回去，
把阿娜抱回去。
阿爸在想孫子啦！
阿媽在想孫女啦！

女：阿爸是在想孫子了，
阿媽是在想孫女了，
可是咱兩個啊，
家業家當還沒有哪！
応用東西還沒有哪！

男：孩子的媽啊，
咱們取到的那些麝香，
咱們翻到的那些金子，
拿到漢族的街上去売，
拿到藏族的街上去売，
卖了麝香買一匹馬，
卖了金子買一匹騾子。
孩子的媽啊，
你会不会騎馬噢？
你会不会騎騾子噢？

女：孩子媽我呀，

金を売って一對の去勢羊を買おう，
山羊の毛皮で袖なしを作り；
羊の毛皮で外套を作ろう。
山羊の毛皮の袖なしをアブに着せて，
羊の毛皮の外套でアナをくるんで，
年若い私は，
アブを背負って帰ろう，
アナを抱いて帰ろう。
父さんは孫息子のことを想っている！
母さんは孫娘のことを念じている！

父さんはそれは孫息子のことを想っていきましょう，
母さんはそれは孫娘のことを念じていきましょう，
でも私たち二人には，
財産らしいものは何也没有せん！
使えるものが何もないのです！

子供の母さんよ，
私たちが採ってきたあの麝香を，
私たちが掘ってきたあの金を，
漢族の市へ持って行って売ろう，
チベット族の市へ持って行って売ろう，
麝香を売って馬を一頭買おう，
金を売ってロバを一頭買おう。
子供の母さんよ，
あなたは馬に乗れますか？
あなたはロバに乗れますか？

子供の母さんの私は，

馬啊馬也会騎！

馬なら馬に乗れますとも！

騾子啊騾子也会騎！

ロバならロバに乗れますとも！

男：阿爸見了会说：整整七年没有見面了！

父さんは言うだろう：まるまる七年も会わなんだ！

阿媽見了会说：整整九年没有見面了★⁴⁸！

母さんは言うだろう：まるまる九年も顔見せなんだ！

騎上馬回去吧！

さあ馬に乗って帰ろう！

騎上騾子回去吧！

さあロバに乗って帰ろう！

女：阿普的爸哟，

アプの父さんよ，

光背馬不好騎，

裸馬では乗りにくい，

光背騾子不好跨，

鞍のないロバでは乗りにくい，

你得找副馬鞍子，

鞍を捜してきて下さいな，

你得找張馬褥子。

鞍布団を捜してきて下さいな。

男：年輕人我啊，

年若い私は，

馬褥子找了七張，

鞍布団を七枚捜して来よう，

馬鞍子找了兩副，

鞍を二つ捜して来よう，

哥哥我啊，

そして私は，

還找上了馬鈴鎧，

馬につける鈴も捜して来よう，

還找上了馬繮子。

馬の手綱も捜して来よう。

女：年輕的人哟，

年若い人よ，

馬褥子找是找上了，

鞍布団は見つかりました，

馬鞍子找是找上了，

鞍も見つかりました，

可是咱們啊，

でも私たちは，

逃要逃出好名声，

逃げてそして名を挙げました，

跑要跑得有面子，

逃げてそして面子を施しました，

再找一些好東西吧！

何かもっと良い物を搜しましょう！

再找一些好物件吧！

もっと素敵な贈物を搜しましょう！

男：哥哥我啊，

再去找麂皮和獐皮，
再去鞣麂皮和獐皮，
等把麂皮鞣好了，
等把獐皮鞣好了，
把它拴在馬脖子裏，
把它繫在馬頸子裏，
馬鈴鐺呀也掛上了，
馬籠頭呀也套上了，
孩子的媽騎上一匹，
年輕的人騎上一匹。

女：現在去是可以去了，

現在走是可以走了，
只是阿普的礼物還沒有哪，
阿娜的礼物還沒有哪。
阿普啊還沒有成人，
阿娜啊還沒有長大★⁴⁹。

男：孩子的媽哟，

別發愁呀別發愁，
別着急呀別着急。
年輕人我来，
找上一雙關山羊，
阿娜的礼物就是關山羊肉；
找上一雙關綿羊，
阿普的礼物就是關綿羊肉。
阿爸啊，
听說他想孫子想得很哩；

私は，

キョンの皮と麂香鹿の皮を取ってきて，
キョンの皮と麂香鹿の皮をなめそう，
キョンの皮をなめしたら，
麂香鹿の皮をなめしたら，
馬の背に振り分けてにして，
首にくくり付けて，
馬には鈴をつけて，
おもがいをつけて，
一頭には子供の母さんが乗り，
一頭には年若い人が乗る。

これで出発することはできます，

これで出掛けることはできます，

でもアプのお土産はまだありません，

アナのお土産がまだです。

アプはまだ一人前になっていません，

アナはまだ大きくなっていません。

子供の母さんよ，

思い悩むことはないのだよ，

先を急ぐことはないのだよ。

年若い私が，

去勢山羊を一頭見つけてこよう，

アナのお土産はこの山羊の肉だ；

去勢羊を一頭見つけてこよう，

アプのお土産はこの羊の肉だ。

父さんは，

孫息子のことをとても気にしているという；

阿媽啊

听說她想孫女想得很哩，

咱兩個啊，

七天的路程一天赶到；

九天的路程一天走完。

阿瑪娜你是騎馬呢，

還是騎驢子呢？

你若是不会騎馬啊，

你若是不会騎驢啊，

七天的路程就赶不到，

九天的路程就走不完。

母さんは、

孫娘のことをとても気にしているという、

私たち二人は、

七日の道のりを一日で奔ろう、

九日の道のりを一日でこなそう。

アマナ、あなたは馬に乗るかい、

それともロバに乗るかい？

あなたがもし馬に乗れなければ、

あなたがもしロバに乗れなければ、

七日の道のりを行くことはできない、

九日の道のりをこなすことはできない。

女：阿瑪娜我騎上馬，

你跳一步我也跳一步！

阿瑪娜我騎上驢子，

你跨一步我也跨一步！

私アマナは馬に乗ります、

あなたが一飛びすれば私も一飛び！

私アマナはロバに乗ります、

あなたが一跨ぎすれば私も一跨ぎ！

男：年輕人我啊，

七天的路程赶完啦！

九天的路程赶到啦！

年若い私は、

七日の道のりを奔り切る！

九日の道のりを奔り切る！

女：孩子媽我啊，

你奔到的地方我也奔到啦！

你跑到的地方我也跑到啦！

七天的路程赶完啦！

九天的路程赶到啦！

子供の母さんの私は、

あなたが奔って行く所に私も奔って行きます！

あなたが駆けていく所には私も駆けて行きます！

七日の道のりを奔り切ります！

九日の道のりを奔り切ります！

男：阿瑪娜，阿瑪娜啊！

想爸想死我啦！

アマナ、アマナよ！

父さんのことを想うと居ても立ってもいられない！

想媽想死我啦！

不睡覺地走吧！

不歇氣地走吧！

到了維西地方了！

到了維西街了！

阿瑪娜啊，你覺得怎樣^{*50}？

孩子媽啊，你還好麼？

母さんのことを想うと居ても立ってもいられない！

一睡もせずに奔ろう！

一刻も休まずに奔ろう！

維西までやってきた！

維西の街に着いた！

アマナ，調子はどうだい？

子供の母さん，大丈夫かい？

女：你走一步我就能跟一步，

你跨一步我也能赶一步。

回到了維西地方了，

回到了維西街了。

あなたが一步進めば私もその後から一步進みます，

あなたが一步跨げば私もその後からついていきます。

維西までやってきました，

維西の街に着きました。

男：阿爸若是問咱們上哪裏去了，

就告訴他咱們去淘金^{*51}了。

阿媽若是問咱們上哪裏去了，

就告訴她咱們去做生意了。

不歇氣地走啊，

走到了阿爸的家了；

不睡覺地走啊，

走到了阿媽的家了。

阿爸殺了伢猪，

叫回了我的頭一個魂^{*52}；

阿媽和好了水酒^{*53}，

喊回了我的頭一個魂。

阿瑪娜啊，

你的魂跑了沒有？

你的魂丟了沒有？

父さんが，お前達はどこに行っていたのだと聞いたなら，

金を探しにいったのだと答えよう。

母さんが，お前達はどこに行っていたのだと聞いたなら，

商売をしにいったのだと答えよう。

休むことなく奔り続けて，

父さんの家に着いた；

一睡もせずに奔り続けて，

母さんの家に着いた。

父さんは子豚を屠って，

私の魂を呼び戻してくれる；

母さんは水酒をかき混ぜて，

私の魂を呼び戻してくれる。

アマナよ，

あなたの魂はどこかへ行ってしまっていないかい？

あなたの魂はなくなったりしてはいないかい？

女：阿瑪娜我啊，
到了阿爸的家裏，
踏進阿媽的家裏，
我們魂一個也沒有跑了，
我們魂一個也沒有丟了。
阿媽啊，
殺了山羊叫了我的魂；
大姐啊，
殺了綿羊喊了我的魂。
她們殺山羊叫魂的時候，
她們殺綿羊喊魂的時候，
咱們就住得安心了，
咱們就住得踏实了，
咱們住得也有名声了，
咱們住得也有面子了。

男：哥哥我啊，
把耕過的地丟給你，
把翻過的土留給你，
阿瑪娜啊，
你只要把土塊搗碎，
你只要把田埂修齊。
四月裏插秧苗，
五月裏点包穀，
到了六月七月裏，
到了八月九月裏，
就是閒下來坐坐也行，
就是抄起手來歇歇也得。
煮瓜啊瓜成了肉，

私アマナは、
父さんの家に着きました、
母さんの家に着きました、
私たちの魂はどこかへ行ったりしてはいません。
私たちの魂はなくなったりしてはいません。
母さんが、
山羊を屠って私の魂を呼んでくださる；
ねえさんが、
羊を屠って私の魂を呼んでくださる。
彼女たちが山羊を屠って魂を呼んでくれたので、
彼女たちが羊を屠って魂を呼んでくれたので、
私たちは落ち着いて留まることができます、
私たちは腰をすえて留まることができます、
私たちは評判を得て住むことができます、
私たちは面子を施して住むことができます。

私は、
耕した土地をあなたにあげよう、
掘り起こした土地をあなたにあげよう、
アマナよ、
あなたはただ土くれを砕くだけでいい、
あなたはただ畦を直すだけでいい。
四月には田植えをし、
五月にはトウモロコシの種を蒔き、
六月七月は、
八月九月は、
ただ座っているだけでいい、
腕組みして待っているだけでいい。
瓜を煮ればそれが肉になる、

煮豆啊豆成了飯。
咱們叨了天的恩，
咱們沾了地的福，
天神結对了咱們的髮辮，
地神配对了咱們的姻緣。

豆を煮ればそれが米の飯になる。
私たちには天の恵みがついている，
私たちには地の幸運がついている，
私たちの編んだ髪には天の神様が結ばれている，
二人の縁は地の神様が取りもってくれたのだ。

女：年輕的人啲，
咱們的身体結合了，
咱們的生命匯合了，
鬼也不能叫咱們得病，
人也不敢把咱們拆散。
咱兩個啊，
種起地來像積雪崩解一樣猛，
織起布來像剝繭抽糸一樣輕鬆。
種地啊也有了勁頭，
織布啊也有了精神。
錢啊咱們也不愁，
布啊咱們也不缺。

年若い人よ，
私たちの身体はひとつに結ばれました，
私たちのいのちはひとつになりました，
鬼といえども私たちを病気にすることはできません，
人といえども私たちを引き離すことはできません。
私たち二人は，
雪崩のように猛然と働きましょう，
繭から糸を紡ぐように軽やかに機を織りましょう。
耕す力があります，
機織りの技量があります。
お金のことで悩むことはありません，
布が足りなくなることはありません。

原注

- ★1 「背」衫とは子供を背負うときに用いるものである。「背帯」と呼ぶ地域もある。以前はリス族の婚姻は親によって取りきめられていて、ほんの小さいうちに許嫁が決まっていることも多かった。
- ★2 歌詞に出てくる「薬」はいわゆる薬とは限らない。何らかの結果をもたらす具体的事物や抽象的な事も「薬」と言っている。たとえば人を悲しませる事を「傷心薬（悲しみの薬）」という。
- ★3 心に何事が気がかりな事があり、まるで藤蔓のようになっている。この事に思いついた度、この藤蔓に触れるようで大変な苦痛を感じる。そのためこれを「傷心蔓（悲しみの蔓）」と比喻する。
- ★4 男性が離婚し、他の女性と結婚しようと思う時は、両親との間に何らかの紛糾が起

くる。そして経済的な損失を受け、暮らしに影響が出る。ここで言う「受苦、受飢荒」はこの紛糾する事態をさすものである。

- ★5 この意味は、彼女(妻)がまるで薔薇の花が刺すように、あなた(夫)をつなぎとめているということである。
- ★6 リス族の階級分化はそれほど明確なものではない。ここは誇張した言い方。
- ★7 「家財」とは直訳すれば、「何頭かの牛に相当する家財」の意味である。リス族では牛を単位として家財を計算する。この二句は「男の家は牛も金もたくさん持っているので、アマナが夫の家から受け取った結納を償還することができる」という意味を表す。
- ★8 「上方、下方」とは、現在地にくらべて高い場所、低い場所を表す。また南と北を表すのにも用いられる。
- ★9 髪の毛や着物の一部を贈るということは、自分の想いを相手に伝えることを意味する。「着物の襟」とは襟の上部または下部の隅の部分で、その部分を小さく裂き、恋人に渡す。後日それをもとの場所と照合して、約束の印とすることができる。
- ★10 リス族の習俗で、一本の木切れに深い筋をつけて二つに割き、契約をするというものである。約束した双方が一本ずつ持っていて、後日それを符合させることで確認する。
- ★11 「箭幹」とは、矢の柄の部分のこと。「劃箭幹」は柄の部分に斜めの刻み目をいれ、誓いの印とすること。
- ★12 リス族の布には二種類ある。一つは太い糸で織るもの、もう一つは細い糸で織るものである。太い糸で織る方が、工程が簡単で早く織ることができる。
- ★13 リス族の女性は、長いものと短いもの二枚の上着を着る。上着を贈るとは、想いを告げることを意味する。
- ★14 中に着るとは、大事にすることを意味する。同時に人に見られることを避けていることも意味している。
- ★15 リス族の男女はみな腰に帯を結ぶ。幅四寸ばかりで、表には花柄の模様が織り出されている。
- ★16 リス族地区では白色の糸しか作れない。赤色や黒色のものはみな外の地域から持ってくるものである。赤・黒の糸は布や帯地を織る時の必需品なので、女性が喜ぶ贈物となっている。男性が女性に赤や黒の糸を贈ることは、自分の想いを告げることも意味している。
- ★17 「修拉卦」とは水辺に生える植物である。葉はモチを包んで食べる。葉は幅広で大きい茎は細く、風が吹くと容易に振れてしまう。ここの二句は、「犁の柄は曲っているけれど、シュウラグアの葉は振れやすいけれど、私の話はそうではない、私の言うことは永遠に変わらない」という意味を表す、反語の表現になっている。
- ★18, 19 弩に矢をつがえるには、非常に正確さを要求され、いささかの緩みも許され

ない。矢を放つ場所には溝が刻まれているが、これは極めて正確に刻まなければならない、一度刻んだ後は、再び修正することはできない。

- ★ 20 出会った人によって言葉を使い分けるということは、ずる賢くて誠意がないという意味である。
- ★ 21 リス族の籠（えびら、矢を入れる袋）は皮で出来ている。熊やその他の野獣の脚部を用いたものは、爪や骨・肉を取り去った後に木の板をはめこみ、袋の底の部分にする。袋の底が木製のため、誓いの印を刻むことが出来る。
- ★ 22 矢筒は竹製で、籠の中に入れる。籠の中には数本の矢筒を入れ、有毒、無毒など様々な矢を分別できるようにしている。
- ★ 23 以上の四句は、誓いを立てる儀式について述べている。リス族の古い習俗では、誓いを立てる時には鶏の血と犬の血を石かまたは他の物の上に撒き、それを埋める。それから天に向かって叫び、刀で地面を叩く。こうして天と血が共に証人となったとするのである。
- ★ 24 二人が逃げた（駈け落ちをした）後で、男は、女性の家がもとの夫に弁償しなければならない、以前に受け取った結納に見合うものを準備しなければならない。結納は牛で計算される。
- ★ 25 「阿登（アトゥン）」は一番上であることを表し、男を指す。
- ★ 26 「阿娜（アナ）」は二番目であることを表し、女を指す。
- ★ 27 この四句は、逃げる人が遠くへ行けば行くほど追手はついて来なくなるという意味である。リス語では、「野鼠」は“hainqikiq”，「逃げる」は“kik”と言い、語尾が同音である。また「イタチ」は“hainqlat”，「追う」は“lat”でこちらも語尾が同音である。原文ではこのように韻を踏んでいるのだが、漢語訳では意味を取るのみで、原文の音を表現することは出来なかった☆3。
- ★ 28 リス族の習慣では、毒矢にあたった時はすぐさまその部分の肉をえぐらなければならない。取り切れない時には、治りが悪いという意味である。
- ★ 29 矢にあたって負傷した時には、滋養のあるものを摂り養生しなければならない。ここでは、それらの滋養物を口にできなければ、生命の危機にさらされ、助かる望みがなくなると言うことが述べられている。
- ★ 30 以上の四句は、出発前に路程を選ぶ場面である。怒江流域のリス族の居住地域は、山に挟まれた峡谷地帯で、いわゆる「箐（山間の大きな竹林、また樹木がうっそうと茂った場所をいう）」の中である。そのため外へ出る道は、北の樹林地帯（「箐頭」）へ向かう道と南の耕作地（「陪地」＝持参金としての田畑）の方へ向かう道の二本である。「箐頭」は常に北方を表し、「陪地」は南方を表す。したがってここでは「北方、南方」と訳した。

なぜこのような選択をするのかは、ことばの押韻のためである。「大女兒」はリス語では“mervul”，「箐頭」は“lovul”となり、一方「小女兒」は“merddi”，「陪

地」は“paireddi”となり、互いに韻を踏んでいる。こうして韻を合わせることはまた、物事が全て順調に行くことをも表現している。

- ★ 31 怒江では川を渡るのに「溜索」☆4を用いることが多い。略して「溜」と呼ばれる。この句の一つめの「溜」は名詞、二つめの「溜」は動詞として用いられている。
- ★ 32 「一段」とは一丈余りの長さのことである。
- ★ 33 彼等が予定している行程では、雪山を通過しなくてはならない。雪の上を歩くと足跡が残ってしまう。そこで、長い衣服を利用して足跡をならしてしまい、追手の目をくらまそうという意味。
- ★ 34 雪道を歩くときの靴は、北方の人がはくフェルトの靴に似た形で、棕（シュロ）の葉や人の頭髮を用いた。また細かい竹編みのものもあった。
- ★ 35 「其拖扒」「科臘噴」は、中国とビルマ（ミャンマー）の国境地帯の地名。
- ★ 36 焼畑耕作のことを指す。まず雑草や樹木を刈り取り、乾燥するのを待って火を放ち、それから耕して種をまく。
- ★ 37 カボチャやキュウリは短期間で熟すので、急ぎの要求に対応できる。
- ★ 38 茅草（チガヤ）や蒿枝（ヨモギ）の育つ土地は肥沃である、という意味。
- ★ 39 「阿披果」とは、だいたい色の小さな果実である。鳥が好んで食べる。
- ★ 40 怒江流域一帯の山上には、芯が空洞のものとそうでないものと二種類のカヤがあり、両者とも屋根を葺く材料になる。
- ★ 41 「珊瑚（サンゴ）」と「海蚌（シャコ貝）」は、リス族の人々が装飾品を作る材料となる。サンゴからは耳飾りを作る。シャコ貝は、様々な大きさの破片にして、ベルトの飾りにする。この二つはリス族の住む土地にはないので、非常に貴重なものである。シャコ貝で装飾されたベルト一本は牛数頭に相当する。したがって、サンゴから五徳は作らないし、シャコ貝で鍋を作ったりはしない。ここは彼等の生活が充足していることを誇張しているのである。
- ★ 42 リス語では、「リス」は“haixqbbeit”で、その第二音節“bbeit”は単独で「分かれる」の意味を表す。また「ハチ」は“bbiathaq”で、第二音節“haq”は「離れる」の意を表す。これらは韻を踏んでいるのだが、漢語に翻訳するに当たってはもとの意味を忠実に再現することはできず、このような比喻を用いるにとどまった。
- ★ 43 「一疋」は、長さが五尺余り、幅が五寸である。
- ★ 44 「阿普」「阿娜」は幼名である。「普阿該」「娜依綠」が正名である。
- ★ 45 リス族の習俗では、嫁に子供が生まれて里帰りするとき、贈物が必要とされる。
- ★ 46 「椿象」は原文では“lo'ngal”[という音]である。殻を持つ昆虫の一種で、食用となる。水辺の石の下にすむ☆5。
- ★ 47 「街」は、市が開かれる場所のことである。
- ★ 48 歌詞中の「七」と「九」は、数が多いことを表している。「七年」、「九年」というのは長い年月の意味である。

- ★49 この二句の意味するところは、整理者にははっきりと分からない。おそらく彼等は幼なすぎて、礼儀を弁えていないということだろう。また彼等はとても小さいので、自分で贈物を捜せないということだろう。
- ★50 ここは、アマナに疲れてはいないかと聞いている場面である。
- ★51 リス族の人々は、中国・ビルマ（ミャンマー）の国境地帯に金の採掘に出かけることがよくある。
- ★52 リス族には「たまよばい」の習俗がある。遠くへ出かけていた人が帰ってきた時は、彼の魂はまだ遠い場所に留まっていて、魂を呼んではじめて帰ってきたことになる。
- ★53 リス族の飲酒の方法は、きつい酒に水を加え、それからストロー様のものを用いて吸うというものである。

訳注

- ☆1 ヌー（怒）族。リス族に隣接して居住する少数民族。人口はおよそ27,000人。チベット・ビルマ語派に属する言語を話す。
- ☆2 倅人。トールン（独竜）族の旧称。怒江と並行して流れる独竜江の兩岸に居住する少数民族。人口はおよそ6,000人。チベット・ビルマ語派、チンポー語群に属する言語を話す。
- ☆3 ここで用いられている表音のための記号は、アルファベットの太文字と記号を用いるものである。この「逃婚歌」の発表と前後して1958年に新しい表記方法が採用された。雲南人民出版社版では、こちらを採用している。ここでも、表記に関してはこちらのものを参照した（原注30, 42, 46についても同様）。

この表記方法は、おおまかには漢語のピン音表記に準じているが、声調符号は音節の末尾にl, q, x, r, tの文字を加えて表記し、鼻音は末尾にnを加える。また漢語にはない音を表記するために、特別な表記を用いる（たとえば濁音を表すために、bb, dd, ggという表記を用いる）。くわしくは『傣僳語簡志』（徐琳ほか編、1986、民族出版社）参照。
- ☆4 「溜索」。ここでは深い谷の急流を渡る仕掛けのこと。竹で編んだロープを渡し、それを伝って対岸に渡るというもの。現在では、竹のロープはワイヤーロープとなり、人々は個人専用の滑車を取りつけて川を渡っている。この様子は1997年1月、日本

のテレビ番組でも紹介されていた。

- ☆5 雲南人民出版社版の注によれば、この昆虫は漢族で言う「椿象（カメムシ）」に相当するとしている。（p.43）

参考資料：駢け落ちのうた リスト

チベット・ビルマ語派

イ族（イ語群）

『逃婚的姑娘』鐘鳴採集，徐嘉瑞・鐘鳴整理 1963，上海文芸出版社

『逃婚的姑娘（尼蘇民間抒情叙事長詩）』鐘鳴採集 徐嘉瑞・鐘鳴整理，
1980 雲南人民出版社

『逃到甜蜜的地方（サニ族民間叙情長詩）』袁勃整理 1979，雲南人民出版社（未見）

《関連作品》『鴛鴦壩』『昆明東郊的撒梅族』pp.305－306 謝劍 1987，中文大学出版社

リス族（イ語群）

「逃婚調（傈僳族長歌）」『民間文学』1955 年第 12 期，pp.4－22，徐琳・木玉璋採集，徐琳・木玉璋・曾茂整理

『逃婚調』徐琳・木玉璋採集，徐琳・木玉璋・曾茂整理，1956，作家出版社

『逃婚調』徐琳等採集整理，1959，人民文学出版社（文学小叢書の一）

『逃婚調・重逢調・生産調』徐琳・木玉璋・曾茂整理，1980，雲南人民出版社

ナシ族（イ語群）

「逃到好地方」『原野』1988 年第 3 期（未見）

(『納西族社会歴史調査』p.41, 1983, 雲南民族出版社)

ハニ族 (イ語群)

「逃到勐先壩」『山茶』1984年第3期, pp.65-67, 金尚鼎(ハニ族)唱,
鄭幫憂・姜羲, 蘭明紅採集整理

ラフ族 (イ語群)

「蜂臘灯(拉祜族民間叙事長詩)」『山茶』1984年第4期, pp.21-24, 扎
約(ラフ族)採集整理

「太陽照着的姑娘」『中国少数民族情歌選』李耀宗等編 1985, 四川民族
出版社

「蜂臘灯」瀾滄県扎 演唱, 李扎約文字記錄, 『拉祜族民間文学集成』pp.
182-192, 雲南拉祜族民間文学集成編委会 1988, 中国民間文艺出版
社

トールン族 (チンポー語群)

「我倆永遠相愛」『雲南歌謡』pp.316-320, 中共雲南省委宣传部編, 1960
人民文学出版社

ミャオ・ヤオ語派

ミャオ族 (ミャオ語群)

「逃婚歌」凱里県丹寨地区李阿德(苗族)歌唱(1959年), 潘光華採集整
理

『民間文学資料 第五集(苗族叙事詩)』pp.136-138, 苗族文学史編写組
編, 1959

「逃婚歌」(一) 楊昌松・唐振邦採集, 吳錦整理 (59.7.22)

(二), (三), (五) 唐春芳採集

(四) 雷山公社李超芳唱, 于賀勇採集, 吳錦整理

(六) 炉山凱棠楊苦保唱(?) 橋波採集, 吳錦整理; pp.63-68, 『民間

文学資料 第八集（黔東南，湘西苗族情歌）』苗族文学史編写組編，1959

「逃婚歌」凱里県炉山地区楊構保（苗族）歌唱（1959.1.18）橋波記錄翻
訳（1959.2）桂船人整理『民間文学資料 第十七集（苗族婚姻歌）』
pp.146-147，苗族文学史編写組編，1959

「逃婚歌」『民間文学資料 第十二集（苗族古歌与情歌合集）』pp.80-81，
苗族文学史編写組編，1959

「逃婚歌」陶自改唱楊漢先採集，韓紹綱翻訳，pp.21-22，『民間文学資料
第二十九集（滇黔，湘西苗族歌謡集）』貴州省民間文学工作組編 1961

「逃婚歌（貴州苗族民間長歌）」『民間文学』1960 年第 10 期，p.54-63，

「私奔歌」『民間文学』1982 年第 10 期，p.83，吳雪惱（苗族）整理

「逃婚歌（苗族向月情歌）」『三月三』1984 年第 6 期，pp.81-84，楊德富
唱，汪發亮採集，燕宝整理

「逃婚歌」『南風』1985 年第 1 期，p.38，楊發芬（苗族）唱，潘任鼎（苗
族）整理

ヤオ族（ヤオ語群）

「甜蜜的遠方（瑶族民間叙事詩）」『山茶』1983 年第 2 期，26-37，47 p
熊秀金（瑶族）翻訳，熊秀金・張鴻・劉德榮整理

《関連作品》「撒旺」『瑶族風情情歌』pp.103-145，蒙冠雄・莫義明・藍
懷昌・劉保元編 1983，広西人民出版社

チワン・トン語派

チワン族（チワン・タイ語群）

「逃到遠方做夫妻（雲南文山壯族民間長詩）」『民間文学』1963 年第 5 期，
pp.86-95，高鳳英・儂玉蓮・柏玉芳唱，田興開翻訳，公浦・良振整理

『幽騷（壯族民間叙事詩）』王德才・王兆文・沈廷相演唱翻訳，雲南省民
族民間文学 文山調査隊採集整理，劉德榮・張鴻再整理 1984，雲南
人民出版社

ブイ族（チワン・タイ語群）

「逃婚歌（二首）」中央民族学院搜集『民間文学資料 第十八集（布依族新民歌合集）』pp.79－85，中国作家協会貴陽分会籌委会他編，1959

「逃婚歌（一）」貞豊県挽蘭黄玉賢唱，廉舟採集翻訳，「逃婚歌（二）」章正賢唱，盧衍採集『民間文学資料 第二十八集（布依族歌謡伝説故事集）』pp.115－119，貴州省民間文学工作組編，1961

「約逃」河採集整理，pp.93－94，「逃到別的地方去吧」楊路塔採集整理，p.104，「我們一起逃走」章廉舟採集整理，p.105，『布依族民歌選』貴州省社会科学院文学研究所 黔南布依族苗族自治州文芸研究室編 1982，貴州人民出版社

タイ族（チワン・タイ語群）

「逃婚歌」『民間文学』1961年第11期，pp.60－63，楊千成等採集集，吳國柱・李必雨整理，多明祥・方克儒・方鶴琴翻訳

トン族（トン・スイ語群）

「拐逃歌：邀妹一起同逃婚，讓咱們自由自在地逃婚吧」

『民間文学資料 第三十集（侗族歌謡集）』pp.79－81，1961，貴州省民間文学工作組編

「逃婚歌二首：春天来到了，我們離開此地吧」『民間文学』1961年第4期，pp.88－90，楊保願採集

モン・クメール語派

ワ族（ワ・パラウン語群）

「私奔一卡佧族情歌」史東文収集『雲南民族文学資料 第二輯』，1957，雲南人民出版社

モンゴル語派

トゥ族

「土族逃婚調」『民間文学』1958年第8期, pp.72-75, 許英国採集

「土族逃婚歌(青海土族民歌)」『民間文学』1965年第4期, pp.126-131,
席永信採集

《関連作品》「拉仁布与且門索」,「阿竜布和姬姆索」

『青海民族民間文学資料 土族文学專集(二)』

青海師範学院中文系等採集整理, 1979 中国民間文芸研究会青
海分会編印

ツングース語派

オロチョン族(ツングース語群)

「逃婚調」『民間文学』1963年第6期, p.89, 烏相葛唱, 関守中・暴俠採
集

「逃婚」『鄂倫春民間文学選』p.145 張鳳鏞・蔡伯文整理 1980, 内蒙古
人民出版社

「逃婚」『中国地方歌謡集成 59 東北九省・児歌・民歌・情歌』pp.278-
279, 舒蘭編, 1990 渤海堂文化出版公司

《関連作品》「烏娜杰逃婚」『中国民間愛情故事選(続)』pp.129-138, 胡
銀傲編, 1981 長江文芸出版社

民族不明

「約妹逃走你可去」『中国地方歌謡集成 29 雲南省・情歌(二)』p.154, 舒
蘭編, 1990 渤海堂文化出版公司